

L16c 百武彗星(5) : 核近傍ジェット現象

福島英雄 (国立天文台) 他 国立天文台 SWAT

1996年1月に鹿児島県の百武裕司さんが発見した百武彗星(C/1996 B2)が地球に0.1019天文単位にまで接近した。この接近距離は、軌道がよく知られている彗星の中では歴代19位の記録となった。

われわれは、国立天文台三鷹の口径50cm社会教育用公開望遠鏡に冷却CCDを取り付け、発見後の2月10日から、西の空に見えなくなる4月18日まで、晴れている限りの連続観測を行った。核近傍のジェットは3月13日ころから現れ、3月19日に顕著になった。特に最接近後の26日の観測では複数のジェットの活動が同時に認められる。観測時間の間にも、そのパターンが変化する様子が捉えられたが、これらのジェットのパターンとその変化には彗星核の自転周期についての情報が含まれている。

本講演では、これらの核近傍のジェット現象から導いた百武彗星の核の自転周期、および活動領域についての議論を行う予定である。

また、これらの画像は本望遠鏡設置の趣旨に従って、インターネット (<http://www.nao.ac.jp/pio/100take/>) および公開天文台ネットワーク (PAONET) により、一般に公開されている。